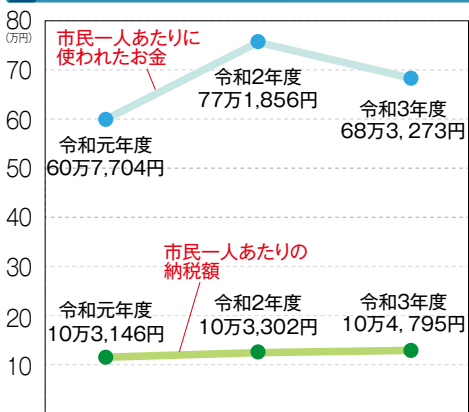


市民一人あたりの額



市民一人あたりで見ると、使われたお金は68万3,273円となり、前年度より8万8,583円減少しています。また、納税額は1,493円増の10万4,795円となっています。

財政分析

区	分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
財政力指数		0.330	0.332	0.323
経常収支比率		92.1%	91.4%	87.6%
健全化判断比率	実質赤字比率	なし	なし	なし
	連結実質赤字比率	なし	なし	なし
	実質公債費比率	8.3%	8.4%	8.4%
	将来負担比率	48.0%	52.2%	38.7%
資金不足比率		なし	なし	なし

財政力指数は0.323で前年度より0.009下がりました。この数値が小さいほど地方税などの自主財源が乏しく、交付税への依存度が高いということを示しています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は87.6%で、前年度に對し3.8ポイント減少しています。なお、令和3年度決算に基づいて算定された本市の健全化判断比率および資金不足比率はすべて健全段階となっています。

このことから、本市の財政は依存財源の割合が大きいものの、健全な経営がなされているといえます。

地方債残高

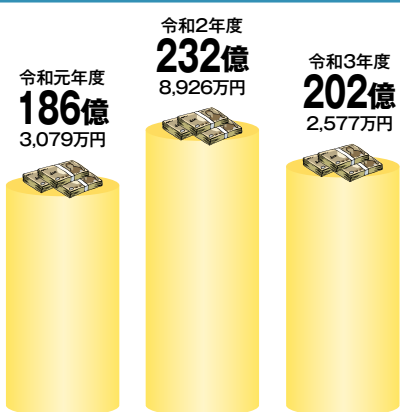
市が借り入れた一般会計の地方債残高です。令和3年度末残高は、180億3,231万2,311円となり、前年度末残高と比較し9億8,088万円の減となりました。内訳としては、臨時財政対策債が59億9,940万円、教育債が32億1,922万円、商工債が21億1,175万円、総務債が20億2,232万円などとなっています。前年度と比較すると、公営住宅整備事業により公営住宅債が1億3,599万円増加しているものの、そのほか大規模な建設事業を行わなかったことから、償還額が発行額を大幅に上回り、残高が減少しました。今後も償還額と発行額のバランスを考慮し、適切に地方債管理を行います。

特別会計

特別会計	歳入	歳出
国民健康保険事業	34億2,348万円	32億4,930万円
後期高齢者医療	4億1,710万円	4億1,179万円
介護保険事業	49億7,947万円	48億608万円

特定の事業を行うために設置されている特別会計では、全ての会計において黒字となりました。

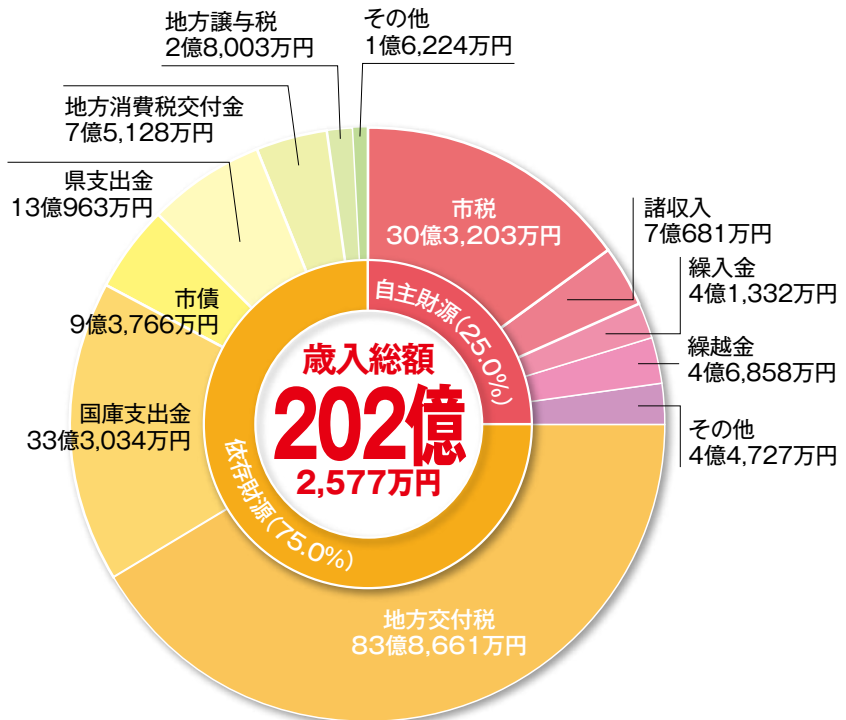
一般会計歳入決算額の推移



令和3年度 決算報告

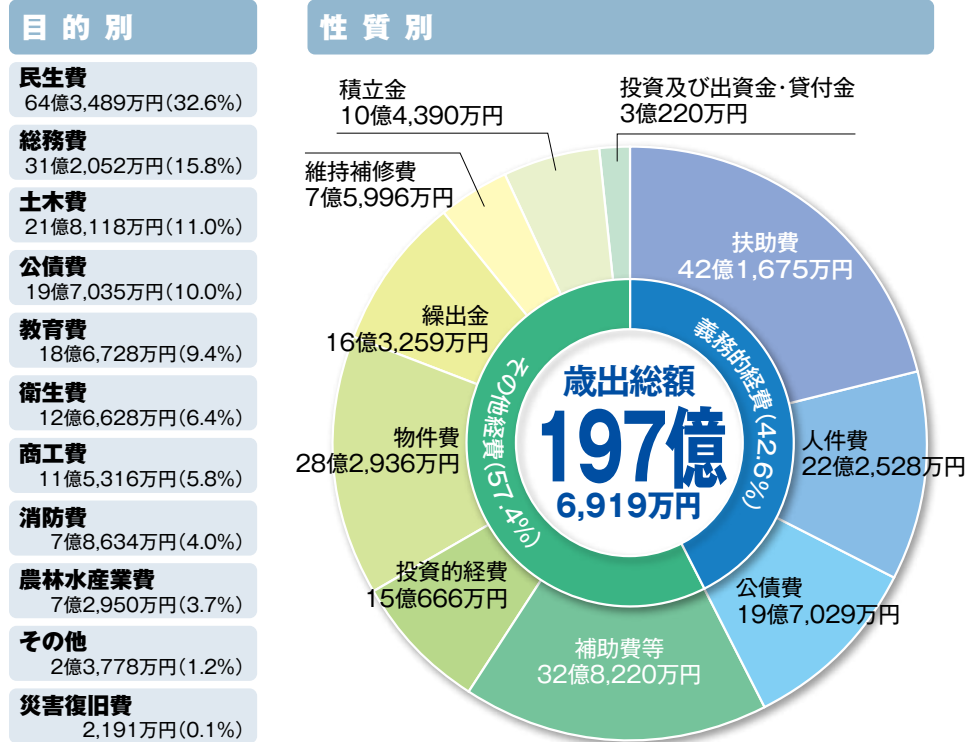
問財政課 財政班 ☎30-0209

一般会計歳入



令和3年度の一般会計の歳入は、202億2,577万円、前年度と比較し13.2%の減となりました。歳入総額では30億6,349万円減少しています。内訳は、市税や諸収入など市で賄う自主財源が25.0%、国・県支出金などの依存財源が75.0%となり、前年度より依存財源が1.5ポイント減少しています。自主財源も4億600万円減少しましたが、依存財源のうち国庫支出金が特別定額給付金給付事業の終了などにより、25億4,786万円減少したことから、依存財源の割合が減少しました。

一般会計歳出



市が支出した一般会計の総額は197億6,919万円、前年度と比較し13.4%の減となりました。歳入からの差引額は4億5,658万円、実質収支は3億9,621万円の黒字となりました。性質別では、扶助費の割合が21.3%、続いて補助費等が16.6%、物件費が14.3%、人件費が11.3%となっています。また、目的別では、民生費が全体の32.6%を占め、続いて総務費が15.8%、土木費が11.0%となっています。